

「日本画制作ワークショップ」作品展

令和8年3月28日(土)～5月10日(日)

東京藝術大学連携事業

郡山市では、国際舞台で活躍する芸術家や教育者、研究者を育成・輩出する東京藝術大学から専門家の方々を講師としてお招きし、郡山の未来を担う青少年の人財育成のため、講座等を実施しています。

令和7年度は郡山市内の中学校・高校に通う方を対象として「日本画制作ワークショップ」を実施しました。

受講生の制作したオリジナルの風神・雷神図を展示しますので、ゆっくりとご覧ください。



昨年度に実施した「銅版画制作ワークショップの様子」

日本画制作ワークショップ

事業	日本画制作ワークショップ ～自分だけのオリジナル風神・雷神を描いてみよう～
開催日	令和8年3月8日(日)
場所	郡山女子大学附属高等学校 美術室
受講生	中学生5名、高校生13名
講師	○東京藝術大学美術教育研究室 ・教授 渡邊 五大 様 ・准教授 伊藤 将和 様 ・助教授 笹野井 もも 様 ・教育研究助手 伊藤 寛人 様 ・教育研究助手 男澤 果林 様 ・修士前期課程 篠崎 遥香 様 ・修士前期課程 柴田 真実 様 ○海老根伝統手漉和紙保存会様
内容	1. 講義(日本画、画材、海老根和紙について) 2. 地塗り 3. 絵具作り(岩絵具と膠、胡粉) 4. 着彩、たらし込み 5. 作品鑑賞・振り返り



講義を受講する様子



着彩している様子

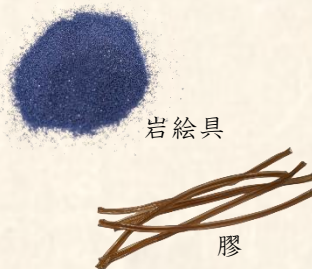
日本画

日本画では、岩を粉状に砕き、膠を接着剤として混ぜ込んでつくる岩絵具を使用するのが大きな特徴です。

岩の種類、粒のサイズ、塗り重ねる回数などで全く異なる色味となるため、豊かな色彩となります。洋画とは異なるマットな質感もお楽しみください。



岩絵具の原料となる岩石



岩絵具

膠

海老根伝統手漉和紙

今回のワークショップでは、郡山市伝統工芸品である海老根伝統手漉和紙を使用しました。

海老根伝統手漉和紙は郡山市中田町海老根地区で江戸時代から受け継がれた製法で作られる和紙です。通常の和紙と異なり、黄色みがかかったところから、時間が経つにつれ、白くなっていく特徴から「生きた紙(生紙)」と呼ばれています。

今回のワークショップでは、講師の先生方が実際に手漉きして作った和紙を使用しています。



海老根伝統手漉和紙

作品展示にあたり

今回のワークショップを実施し、作品展示に至るまで、沢山の方に御支援をいただきました。

講義していただいた東京藝術大学美術教育研究室の皆様、海老根伝統手漉和紙保存会の皆様、快く会場提供し、当日までご支援くださった郡山女子大学附属高等学校様に心より感謝申し上げます。

文化振興課

